



ち☆ネット!

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です!



平成30年6月7日 第33回 地域医療ネットワークの会

テーマ 退院支援ナースによる地域連携

聖マリアンナ医科大学病院では、2017年度より各病棟に『退院支援ナース』を配置し、退院支援の活性化と病院と地域の連携強化に向け、新たな取り組みを始めました。今回は、『退院支援ナース』の紹介と退院支援の実際、退院後の生活状況等を紹介し、43施設、178人の参加者と共に新たな地域連携などについて意見交換を行いました。

座長 地域医療ネットワークの会世話人(訪問看護ステーション長沢ひまわり)
(聖マリアンナ医科大学病院)

坂本由恵
行田菜穂美

『退院支援ナース』の新たな取り組み

聖マリアンナ医科大学病院 メディカルサポートセンター

保科かおり

病棟での実践報告 ～外科病棟の取り組みとストマ造設患者の支援～

聖マリアンナ医科大学病院 本館6階北・西病棟

よないやま
米内山千鶴

ストマ造設後の訪問看護サービス利用者の地域での支援

セントケア訪問看護ステーションあさお

山本妙子

意見交換

メディカルサポートセンターの保科看護師長から当院の退院支援の実際と退院支援ナースの育成について説明がありました。取り組みはじめてばかりであり、病棟によって役割も活動内容も様々なため、今後地域との連携を通じて成長していった欲しいという希望が述べられました。

退院支援ナースと訪問看護師からは、1人の患者の退院支援を通じて病棟看護師と訪問看護師が直接情報交換することはとても効果的であり、退院直後の訪問に活かされると発表がありました。

意見交換の場では、どこまで家族指導して帰したら良いかという退院支援ナースからの質問がありました。訪問看護師からは病院の在院日数が短縮化されたなかでの指導には限度があると思うので、どこまで出来てどこが出来ていないか、何が不安かということを教えてもらえば良いという返答がありました。このよ

うな情報交換が大切だという気付きがありました。病棟師長から自分たちで出来ることは退院支援ナースを中心に病棟で行い、メディカルサポートセンターにはより専門性の高い支援を行ってもらうように考えているとの意見がありました。

アンケートでも退院支援ナースに期待を寄せるご意見がたくさんありました。退院支援ナースを通じて病院と地域の距離がこれまで以上に縮まっていくことを期待します。

